

(別添3)

【阿見町】 校務DX計画

【現状】

阿見町では、令和4年から保護者連絡アプリを導入したことで、ペーパーレス化及び教職員の紙配布や児童生徒の欠席・遅刻等に関するやりとりにより発生する業務の軽減において一定の成果は出てきているが、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、FAXでのやり取りの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の一扫が一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1) クラウドツールの未活用・次世代の校務システムの導入に向けて

物理サーバによる運用及び校務用ネットワーク環境を職員室に限定していることから、教職員は職員室内での業務が必要となっており、PCを使用する事務作業を行える場所が制限されている。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

一部の業者とのやり取りにおいてFAXが使われており、廃止に至っていない。また教職員が学校や教育委員会へ提出する事務手続きはクラウド化されておらず、書類での提出となっている。このことから、責任者による押印等が必要であり、“押印待ち”といった無駄な時間が発生し、押印待ちによる残業等も発生している状況である。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一扫

児童生徒の基本情報や出欠情報などについて、校務支援システムへ手入力で登録を行っている状況であり、当該作業にかかる時間が教職員の大きな負担となっている。

【取組方針】

現状と課題から阿見町では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) クラウドツールの整備・活用・次世代の校務システムの導入に向けて

校務系と学習系のネットワークを統合し教職員の端末を1台にすることで、クラウドツールをより活用できる環境を整える。同時に場所にとらわれずにPCを使用した事務作業が行える環境整備を推進する。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

緊急連絡やFAXの方が効率的な場合を除き原則FAXでのやりとりの廃止に向け、検討を進める。押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、押印の文化をなくしていく。県や教育委員会の制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図っていく。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

保護者連絡アプリを更に活用することにより保護者から受け付けた児童生徒の出欠情報や、学習情報の自動連携ができるように整備を進めることで、教職員の負担軽減を図る。